今年度の学校評価（後期）について

教育目標の達成状況　次年度に向けた見直し（自己評価）

一人一人の心が動き，素直に感じたままを表わし，友達とつながりながら，遊びや経験を積み重ね，様々な力がついてきている。夢中になって遊ぶ中で「もっと面白く」「もっと楽しく」と意欲的に取り組む姿勢も育ちつつあるが，ちょっとした困難に立ち止まる姿もある。物事に向き合い課題を解決しようとするたくましさを培っていきたい。また，制限のある生活の中でも心が豊かになるために多様な経験ができるよう取組の工夫をしていきたい。

学校評価の重点項目
（1）幼稚園教育（2）幼小連携・接続（3）預かり保育（4）子育ての支援（5）地域とのつながり（6）働き方改革

（1）幼稚園教育

各種指標結果

（アンケート結果）　概ね，AB 評価を合わせると高い数値にはなるが，内容は B 評価（そう思う）が増加し，A 評価（とてもそう思う）が減少している傾向がある。3　学期は休園や学級閉鎖が相次いだ。制限のある教育活動に保護者も様々に思うところがあると感じる。

・週末打ち合わせにより、各学年の実態に合った援助などについて多角的に話し合い、発達に応じた教材や保育環境の充実をはかった。また降雪など「その時」を逃さない季節感を大事にした保育ができた。
・1 月以降の第 6 波により活動に制限がある中、密にならない活動を展開しながらも各クラスで教師と子ども、子ども同士のつながりが感じられる活動を展開することができた。
・学年をこえた異年齢との直接交流はできなかったが廊下や園庭で互いの遊びを垣間見たり、動画を見合ったりしてあこがれを持ったり遊びの刺激を受けたりした。

・週 1 回の絵本貸出と、親子での絵本貸出の継続により「親子でえほん」の 100 冊越え44人。（園児の約半数）3　学期は感染症対策もあり，えほん室開放を制限したことも要因。200 冊を超える人もいるが，冊数の少ない家庭もあり，偏りがある。
・KKP（烏丸・上京プロジェクト）により他校種と同時期に朝の挨拶運動を実施。各クラスでも挨拶の指導や啓発を行った。啓発と日々の指導もあるが，生活発表会翌日、晴れやかな声で朝の挨拶をする園児が増えた。幼児の成長は，何か一つができるようになるだけでなく様々な面の成長につながっており，「幼児は一体的に育まれる」ことを実感した。

重点目標の達成状況次年度の課題

・第 6 波の中，教育活動が様々に制限される中，模索しながらではあったが，週末打ち合わせを活用することで各担任が互いに意見を出し合い今できることの中で教師も子どもも創意工夫し夢中になれる活動ができ，自分たちで遊びを進める充実感や，めあてをもって取り組む満足感につながった。3　つの資質・能力（知識及び技能の基礎　思考力，判断力，表現力等の基礎　学びに向かう力，人間性）が一体的に育まれつつあると感じている。
・今後も現状に満足するのではなく，子どもとともに保育を創造し，夢中がどこにあるのか探り続けていきたい。そして，資質・能力の育ちをとらえるため，どの学年も「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をより意識した保育の振り返りを行っていきたい。
・異年齢交流は難しかったが、動画を見合い年中・年少は年長児へのあこがれをもち、遊びに広がりが見られた。
・コロナ禍の中、感染症対策をしながらの状況が続く。保育が充実する方法や異年齢交流の方法、保護者への教育活動発信を探り，ICT 機器を保育に活用できるよう教職員が機器に慣れていく。

取組の改善

・保育充実のため教員打ち合わせの活性化と、「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を意識した週案振り返りの積み重ね
・教育（保育）活動充実と、保護者への発信のための ICT 活用と工夫
・感染症対策を含めた保育室環境工夫の継続　・年長組2クラス2階保育室対応のため、えほん室1階への一部移動後の整備と活用の工夫

（2）幼小連携接続
各種指標結果
（アンケート結果）箸やペンを正しく持つ項目の A 評価が増加した。発達とともにできることが増えるということもあるが，家庭も園も意識して働きかけることは大事である。

・後半、各小学校と ICT 活用した双方向での交流はできなかった。就学前健診で子どもが感じたことを話したり、小学校の写真スライドなどを見たりすることで、期待が膨らんだ。
・子どもの育ちがつながるよう小学校との連絡を丁寧に行った。
・10の姿の観点から週案の振り返るとともに、自由な発想ののびのびした表現（思考力・判断力・表現力等の基礎）、筆圧や鉛筆や箸の持ち方（知識・技能の基礎）、話を聞く姿勢（学びに向かう力・人間性）の資質・能力について子どもの育ちをとらえ次週以降の活動に反映した。

重点目標の達成状況次年度の課題
　一人一人の思いや表現を大事にしたことで自己肯定感などの資質は育ってきている。夢中を大事にした保育の中で意欲や態度の育ちがみられた。知識・技能の基礎も培われてきているが、さらに細やかな幼児の発達の理解と多様な経験、個に応じた指導ができるよう活動や環境の工夫をしていきたい。
　直接交流が難しい状況が続く中でICT活用は不可欠だ。小学校への働きかけを積極的に行う。複数校ある進学先の小学校と無理なく接続する在り方を模索する

取組の改善
・小学校に働きかけ、ICTを活用した幼小交流と、互いの教育を知るための研修の年間計画をたてる。
・年長組だけでなく、数量の感覚、手指の操作、姿勢の保持に焦点をあて、知識技能の基礎への理解を深め、育ちの実態をとらえる。

（3）預かり保育
各種指標結果
（アンケート結果）無回答が少し減り B 評価（そう思う）が増加。3 歳児の預かり保育利用が増え回答しやすくなった。子育ての支援として必要との回答は A 評価が増加。一方で，楽しさや安心感を持っていると思わないとの回答もある。

・感染状況が落ち着いていた 2 学期はボランティアによる読み聞かせを3回行った。
・個人で楽しむ編み物や織物など冬ならではの遊びを取り入れたり、同じ教材でも蜜にならないような出し方をしたりして遊びがマンネリ化しないよう工夫した

・第６波での休園をうけ、開始前と終了前の手洗いまたは消毒の励行などのほか、異年齢同士が集う預かり保育でのさらなる感染症対策として、個人のスペースを確保すること、学年での交流を減らす保育環境の工夫(学年別実施)を行った。

重点目標の達成状況次年度の課題
・冬季の毛糸を使った遊びや読み聞かせや遊びは預かり保育への期待感や満足感を高めた。
・冬季の毛糸を使った遊びや新たな遊び環境の取組(個人スペース・学年別実施)は預かり保育の目新しさもあり子どもも喜んだが、異年齢交流の中で育つものがある。感染状況に応じた実施方法や環境の工夫を絶えず行う。
・感染症対策(個人スペースの確保、学年別実施などの工夫)は人手が必要となる。定期的な人材の確保が課題。

取組の改善
・感染症対策と、マンネリ化しない遊び環境の工夫との両立　・ボランティアの募集と活用

(4)子育て支援
各種指標結果
(アンケート結果)概ね B 評価が増え, A 評価が減少。HP 閲覧も B 評価が増加。更新頻度が落ちたことも要因。教職員との信頼関係もある程度築いてはいるが, 気軽に相談できるというものではないというところだろう。参観や懇談会, 座談会の開催が少なく, 登園降園時での伝達時間も十分とは感じてないと分析する。

・ほっこり子育て広場(内容:認める)の実施１回
・クラス懇談会実施(10 月)　個人懇談実施(12 月)
・保護者は園の教育活動にとても協力的であるが、保育参観ができない、園の中が見えないと感じている保護者は多い。
　就園を控えた家庭にむけて、園の紹介動画や, 持ち物の始末の仕方の動画などを発信した。

重点目標の達成状況次年度の課題
・ほっこり子育て広場や懇談会など参加者は意見を交換し満足感のある内容であった。しかし、感染状況をみながらの開催は参加者が限られることや、実施時期を見通す難しさがある。一方、個々の保護者の悩みや相談などは日々の送迎時にできることを見つけて行うように心がけた。しかしアンケート結果では, A 評価がやや減り, B 評価が増えている。教職員に相談しようと思ってもためらう人もいることが感じられる。
・参観や懇談が思うように実施できない中、園での活動や子どもの育ちを発信する工夫が必要。それぞれの保護者との信頼関係をしっかり築くことを意識していきたい。
・休園や登園自粛などで幼稚園に来られない家庭支援として教材配布のほか、zoom の活用を試みた。家庭の ICT 環境の把握は今後の課題。
・第６波を受けて２月からの教育相談活動を休止した。今後地域の子育て支援をどのように行うのかが課題。

取組の改善
感染症対策を見極めながらの家庭教育講座などの集合での実施
各家庭の ICT 環境の把握と、ICT を活用した家庭支援と教育活動の発信方法の工夫
教育相談活動が休止した場合の地域への子育て支援として、広報紙の紙面工夫と発行の継続
(5)地域とのつながり

各種指標結果

（アンケート結果）高齢者施設への関心について C 評価が減り B 評価が増加。しかし，地域への関心は A 評価がやや減少。

・年長だけでなく、年中組も高齢者施設の内部の様子が分かる映像をみて、テラス越しに見える施設のことを理解し興味をもった。手紙や絵、ビデオレターを渡し交流を行った。
・年少児は2回、地域の公園にでかけた。落ち葉遊びから、公園で出会った方々の清掃活動を手伝い褒めてもらった。偶発の出会いをであったが子どもの遊びが地域清掃活動につながることを保育者も実感し地域の方にも発信できた。
・上京中 3 年生家庭科とつながり、子どもの動画を渡し、3 年生の手作り絵本をもらった。5 歳児は手作り絵本をヒントに自分でつくり、園内展に中学生の絵本とともに展示し保護者にも発信できた。お話を考える活動、透明紙芝居の遊びにつながり、活動が広がっていった。
・感染症対策のため地域力を活用した様々な行事（餅つき・お茶会・預かり保育しおりづくりなど）が中止となった。

重点目標の達成状況次年度の課題
・コロナ禍の中、活動の制限はあるが、計画的に園外活動、地域とのかかわりを取り入れることで、子どもに多様で幅広い経験ができる。コロナ禍だからこそ、年長組だけでなく、年中・年少組も様々な人との出会いやつながりを保育計画にしっかり組み入れていきたい。
・様々な行事が中止となる中、今まで培ってきた幼稚園と地域とのつながりが途切れないようにしたい。アンケートにも地域の項目の A 評価が減っている。コロナ禍の中でかかわる機会をどのようにもつのかが，課題。

取組の改善
・コロナ禍であってもできる地域を知る・つながる活動（高齢者施設や上京中との交流や園周辺の清掃・公園への散歩）を各学年ともに年間計画に具体的に組み入れる。
・学校運営協議会を通じて地域各団体とのつながりが保たれるようにしていく。

（6）働き方改革
各種指標結果
・会議レジュメの事前共有ができ、概ね会議や研修は予定通りの時間でできた。
・週末園研は感染状況により職員室での対面ではなく Teams を活用し書面にて意見交換を行うようにした。
・感染状況により日々変化する状況を職朝と共有情報の職朝ノートメモを活用し漏れのないよう心がけた。
・休園対応や感染状況による保育の工夫と保護者対応には時間を要した。

重点目標の達成状況次年度の課題
Teams の活用により、自分の時間の裁量により週末の園研が継続できた。
紙メモはアナログではあるが、情報の視覚化に有効。今後もアナログとデジタルそれぞれの強みを働き方改革に活かす。
感染症対策による保育活動への影響、育てたいものは何か、どう工夫して保育を行うか検討するに時間を要するが、実行には職員のマンパワーを活用し速やかに行える。教職員の連携を強化したい。
取組の改善
・次年度は新たにiPadや様々なICT機器が配分される。使い方をマスターするために時間を要することもあるだろうが、新たな機器の活用で保育の充実と働き方改革の両方を実現していく。